

主体的・  
対話的で  
深い学び

授業実践

# 国語

素材文を読み解くオーセンティックな問いで、  
人間のあり方・生き方に迫る

大分県立大分舞鶴高校 佐藤秀信

## 10:30 本時の課題と活動手順を提示



生徒は予習として、前時にグループで行った素材文の読解を基に、本時の課題「杜甫が叔母の墓の銘文の言葉を『嗚呼、有唐義姑、京兆杜氏之墓』としたのはなぜか?」を考えた上で、本時に臨んだ。本時では、その問いの答えをワークシートに書かせてから、佐藤先生は活動の手順を説明。

### 本時のキー課題

## 10:50 A～Cの担当者が集まり、考えを共有



【ジグソー活動】担当する問いが異なる生徒が各問い1～2人ずつ集まって新たなグループを組み、担当する問いに対する考えを共有した。佐藤先生は、机間指導でワークシートの記述内容を確認しながら、意見を持っている生徒や発言をためらっている生徒に声をかけ、発言を促した。

### 本時の概要

【対象／教科／科目】3年生／国語／古典B 【分野・単元】漢文・『杜詩詳註』（2019年度センター試験・本試験の第4問。本時は全2時間のうちの2時間目。P.47に指導計画を掲載）  
【育成を目指す資質・能力】思考力、判断力、表現力、協働性  
【学習内容】漢文の課題に知識構成型ジグソー法（\*1）で取り組んだ。解答のヒントとなる3つの問いを分担し、同じ問いの担当者から成るグループで議論（エキスパート活動）した後、異なる問いの担当者から成るグループで各問いに対する考えを出し合い、問題の解答を考え（ジグソー活動）、それをクラス全体で共有。

主 主体的な学び  
対 対話的な学び  
深 深い学び

**さとう・ひでのぶ** 教職歴35年。同校に赴任して1年目。指導教諭。国語科。外部研修に参加し、主体的・対話的で深い学びの効果を実感。大分県教育委員会「深い学び研究会」への参加をきっかけに、知識構成型ジグソー法を授業に取り入れ始めた。

#### 学校概要

◎校是は「しまれ、がんばれ、ねばれ、おしきれ」。県下唯一の理数科を設置。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」に2005年度から継続して指定を受けており、現在4期目。学びのSTEAM化にも学校全体で取り組んでいる。

◎設立 1951（昭和26）年

◎形態 全日制／普通科・理数科／共学

◎生徒数 1学年320人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、広島大、九州大、熊本大、大分大、宮崎大、大分県立看護大などに240人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、福岡大などに延べ351人が合格。



\*1 ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協調学習法の1つ。ある課題について、複数の視点で書かれた資料を読む「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の3つの活動から成る。

## 10:36 A～Cの各担当に分かれて議論



【エキスパート活動】担当する問いが同じ生徒で、「自分の子を犠牲にして杜甫の看病をしたことが『義』なのでは?」「途中に出てくる『列女伝』の内容は、叔母がしたことと似ていない?」などと、活発に議論。佐藤先生は、各グループを回り、「この後、他者に説明するための解答を作ろう」と指示した。

## 10:34 A～Cの3つの問いを提示



佐藤先生は、課題に取り組むためのヒントとなるA～Cの3つの問いを提示(P.46 図1)。生徒はいずれかの問いを担当し、同じ問いを担当する生徒4人でグループを組み、答えを話し合った。担当している問いが何かひと目で分かるよう、Aは青、Bは黄、Cはピンクのワークシートに色分けした。

## 本時のキー課題

## 11:12 各グループの解答を共有



【クロストーク活動】全グループが模造紙を黒板に掲示し、クラス全体で共有した。生徒は、ほかのグループの解答を見て思ったことを、グループ内で言い合っていた。最後に、再度個人で課題の解答を考えたが、授業時間内に終わらなかったため、放課後までに考えて提出させることにした。

## 10:56 グループで解答をまとめる



【ジグソー活動】「叔母が自分の子を犠牲にしたのは、本当に『義』と言えるのかな」と、素材文に対する批判的な意見も出るなど、生徒は様々な意見に触れながら、グループで課題の解答を練り上げていった。解答がまとまったグループは、短冊状の模造紙に解答を記入した。

## ●私が目指す授業

## ●学びが生徒の人生に結びつく視点で、授業をデザイン

私は長らく、「分かる授業」を心がけてきました。生徒が授業の内容を理解し、定期考査や模擬試験の得点を上げ、志望校に合格することを目指す授業です。生徒の授業満足度は高かったのですが、今考えると、知識や解法のテクニックを教え込むだけの授業だったように思います。

どのような授業がよい授業なのかを改めて考えるきっかけとなったのは、新学習指導要領でした。育成を目指す資質・能力として示された思考力・判断力・表現力や学びに向かう力などを、私は生徒に育てているのかといった疑問を持ったのです。

そこで、大分県教育委員会主催の「深い学び研究会」(※2)に参加し、知識構成型ジグソー法を学びました。それを授業に取り入れる過程で、従来の私の指導には、なぜ、その教材を使うのか、授業での学びが生徒の生活や人生にどのように結びつくのかといった視点が十分ではなかったことに気づきました。

以降、授業ごとにねらいを明確に

\*2 東京大学 CoREF が主催する知識構成型ジグソー法による授業研究会「新しい学びプロジェクト」の協力の下、2020年度まで実施。

## 図1 本時の問い

### ●本時の課題

杜甫が叔母の墓の銘文の言葉を『嗚呼、有唐義姑、京兆杜氏之墓』としたのはなぜか？

### ●エキスパート活動での問い

**A** ある人の問いかけに、杜甫が傍線部B「非敢当是也」と答えたのは、なぜか？

**B** 傍線部E「泉君有焉」とあるが、「有焉」と言えるのは、なぜか？

**C** 傍線部F「銘而不韻、蓋情至無文」とは、どういうことか。

A～Cの問いは、前時に取り組んだ演習問題と関連しており、前時の学習内容の理解が本時にもかかわる。

※佐藤先生提供資料を基に編集部で作成。

## 図2 生徒の本時の解答例

生徒①

### 活動前

恩のある叔母は唐の義のある存在であり、これがその墓であると示すため。

### 活動後

私情を絶った義のある叔母を「魯義姑」になぞらえて「有唐義姑」と表現し、単純な文で墓を建てるのは孝行ではなく、当然のことであると示し、また、韻を踏まなかったのは、感情があふれて形式的にする必要がなかったから。

生徒②

### 活動前

詩のリズムを整えたり、形を美しくしたりするために韻を踏むといった、うわべを飾ることはせず、自分の本心を叔母に伝えたかったから。

### 活動後

杜甫は、魯の女性のように義のある行動をした自分の叔母に報いているだけであり、叔母に対する感謝の思いを真つすく伝えるため、形式的に韻を踏む必要がないと考えたから。

※佐藤先生提供資料を基に編集部で作成。

し、生徒の協働性を重視する授業デザインを心がけています。

### ●私の発問・課題設定の観点

### 活動の手順や問いの工夫で、素材文の深い読解に導く

単元の基本的な流れは、次の通りです。教科書の素材文を2〜5つの塊に分け、その塊ごとに問いを1つ設け、1コマ1問のペースで解答させていきます。最後に、単元全体にかかわる課題を出し、各問いの解答を統合しながら取り組み、読解を深めます。素材文は、大意をすくにつ

かませたい場合は2つ程度に大きく分け、じっくり取り組ませたい場合は細かく分けます。

授業ではまず、個人で問いについて考えさせた後、グループになって各自の考えを共有しながら、1つの解答を作成させます。それを踏まえて、再び個人で同じ問いについて考え、解答を作成。最後に、活動の過程を自己評価し、授業での学びや気づきをワークシートに書かせます。

問いは、「素材文の主題」「作者の問題提起」「主人公の心情」など、素材文についてのオーセンティックな内容にしています(図1)。人間

のあり方・生き方が凝縮された国語教材のよさを最大限に生かし、生徒に何を伝え、何を考えさせたいのか、ポイントを絞り込んでいます。

例えば、『平家物語』では、「武士の生き方とはどのようなものか」と問いかけています。すると、生徒は、「名譽を重んじる生き方」といった答えに加えて、「武士の生き方と部活動との共通点を見いだしていました。哲学者のエッセーの読解では、「人は一人では生きていけない」と、多くの生徒が書いていました。そのように、自身のあり方・生き方につながる問いかけをし、繰り返し考えさせること

で、社会で生きていくための広い視野をつかんでほしいと考えています。

本時で行った大学入試の過去問題の演習でも、授業デザインは同じです。過去問題の素材文からも学ぶべきものがあると考え、生徒が読解力や思考力、表現力を高められるような問いを出し、グループで解答を導く活動を行っています。

知識構成型ジグソー法を授業に取り入れて7年が経ちましたが、今も試行錯誤の連続です。初めの頃は、各グループが出した解答がほぼ同じで、生徒の視野を広げるに至らなかったことがよくありました。生徒を正解に導きたいと思うがあまり、ヒントとなる問いを具体的にしすぎたことが原因でした。今は、「なぜか」「どういうことか」など、あえて漠然とした問いにすることで、生徒から多様な意見が出るようにしています。

一方で、問いを具体的ににして、生徒が考えやすくなる場合もあります。本時の課題は、「杜甫は叔母にどのような思いを持っていたのか」と具体的な問いにし、杜甫の行動や発言から心情を読み解かせることで、正解にたどり着きやすくなると考えました。

質の高い問いを出し、解答のプロ



セスを明確にして、生徒が話しやすい環境を整えれば、教科・科目や生徒の学力の違いにかかわらず、生徒同士で考えを出し合い、自分で答えを導いていけると思っています。

● 成果と展望

生徒の解答の変容から教育活動の成果を測る

活動の前後の解答を比較すると、活動後の方が、記入した文字の量が多く、文章も具体的で、素材文を深く読み込んでいることが分かります(図2)。協働学習を通じて様々な他者の考えに触れ、自身の考えを深めていくからでしょう。生徒の解答の変容は、問いの設定やグループ活動の進め方などが適切だったかを検証するデータとして、授業改善に生かしています。

定期考査では、大学入学共通テストと同じように、複数の文章・資料を読み比べて解答する問題を出しています。教科書の素材文と関連した初見の文章を出し、複合的に考えさせることで、授業の内容の理解度を測っています。

以前は、年度によって模擬試験の

結果にばらつきがありました。この数年は、2年次2月から大学入試までに偏差値が2ポイント程度上がるようになりました。毎時間問いに向き合い、自身の考えを表現することで、生徒の読解力や表現力が高まっていくのだと思います。

今後の課題は、生徒の主体性の喚起です。協働的な学びが活発に行われ、深い学びが実現しているという手応えはあるので、主体性が高まれば、そうした学びを授業外でも行うようになると考えるからです。国語で学んだ手法を、他教科・他科目の学習に応用する力を育むことも課題です。どちらの課題も、探究学習を充実させるためには取り組む必要があります。他教科・他科目と連携した授業を行い、生徒をさらに深い学びに導いていきたいと思っています。

VIEWn-expressでは、  
本時の授業の様子を  
ダイジェスト動画で紹介!  
<12月24日公開予定>

VIEW n-express

検索



単元の指導計画

【教科・科目】国語・古典B 【分野・単元】漢文・問題演習 【テーマ・作品】『杜詩詳註』(2019年度センター試験・本試験の第4問) 【設定時数】2時間(本時は2時間目) 【単元目標】主人公の心情を読み取る。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	問題の解答と素材文の読解	素材文全体を読解し、ストーリーを捉えることができる。 【知識、技能、協働性】	① 20分間で問題に解答させる。 ② 4人グループで素材文を読み解きながら、ストーリーを捉える。その際、問題の解答に言及してもよい。	【対話的な学び】 机間指導しながら、つまづいているグループにヒントを与えたり、意見を持っていそうな生徒に発言を促したりする。	行動の様子
2	杜甫が叔母の墓の銘文の言葉を、「嗚呼、有唐義姑、京兆杜氏之墓」とした理由	各挿話・思考等が心情に結びついて銘文となったことを表現できる。 【思考力、判断力、表現力、協働性】	[予習] 前時の学習内容を踏まえて、自分の解答を作成する。 ① 本時の授業の流れと、課題を確認する。 ② 課題を考えるためのヒントとなる3つの問いについて、同じ問いを担当する生徒4人で、エキスパート活動を行う。 ③ 各問いの担当者が集まったグループで課題の解答を考え(ジグソー活動)、クラス全体で共有する(クロストーク活動)。 ④ 本時の活動を踏まえて、自分の解答を作成する。	【主体的な学び】 エキスパート活動での内容を、他者に確実に伝えるよう促す。 【対話的な学び】 机間指導しながら、つまづいているグループにヒントを与えたり、意見を持っていそうな生徒に発言を促したりする。 【深い学び】 ・エキスパート活動の内容や、ほかのグループのまとめは、あくまでもヒントであり、それらを参考にして自分の考えをまとめるよう促す。 ・1つの根拠ではなく、全体を通して考えることで得られる複数の根拠を基に、本時の課題に取り組むよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動の様子</li> <li>ワークシートの記入内容</li> <li>振り返りシートの内容</li> </ul>

※佐藤先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。